



2026
令和8年

中山道広重美術館連続講座

中山道広重美術館
Nakasendo Hiroshige Museum of Art



「浮世絵インパクト—江戸から現代へ—」

江戸時代に誕生した浮世絵版画は明治末期に衰退した一方で、海を渡りジャポニズムの火付け役となりました。また、高度な木版技術は大正・昭和の新版画へと発展し、現代にも継承されています。本連続講座では、「広重」の系譜に注目しながら、江戸から現代における浮世絵の受容・継承・発展の変遷をたどります。

第1回 4月18日(土)

歌川豊広から初代広重へ —花鳥画と風景画を中心に—

赤木 美智 (太田記念美術館上席学芸員)

1977年、徳島県生まれ。大阪大学文学研究科後期課程単位取得退学。担当展示に「広重と清親—清親没後100年記念」(2015年)、「葛屋重三郎と版元列伝」(2025年)など。論考に「歌川豊広の墨摺絵における絵手本学習—橘守国と英一蝶学習を中心に—」(『浮世絵研究』10号、2019年)、「一蝶・豊広・広重と淀の川舟」(同12号、2022年)など。

第2回 5月23日(土)

小林清親 —明治の「広重」—

村瀬 可奈 (東京国立博物館研究員)

1988年、愛知県生まれ。同志社大学文学部美学芸術学科卒業、名古屋大学大学院文学研究科修了。町田市立国際版画美術館学芸員を経て、2023年より現職。専門は浮世絵。担当した主な展覧会に「清親—光線画の向こうに」(2016年)、「葛屋重三郎 コンテンツビジネスの風雲児」(2025年)など。

開催日
決定

第3回 2027年1月9日(土)

「広重」を継ぐもの —二代・三代広重—

神谷 蘭 (学習院大学哲学科助教)

1993年、神奈川県生まれ。学習院大学人文科学研究科美術史学専攻博士後期課程単位取得退学。2020年より港区立郷土歴史館で勤務し、2026年より現職。専門は日本近世・近代絵画史。主な担当展示に「港区浮世絵さんぽ」(2021年)、「ある図案家の仕事—宮中の染織デザイン—」(2023年)など。

第4回 9月12日(土)

川瀬巴水が描いた旅 —広重との風景くらべ—

小山 周子 (東京都江戸東京博物館学芸員)

2001年より現職。担当展覧会に「どうぶつ百景—江戸東京博物館コレクションより」(2024-5年、愛知県美術館ほか)、「東京—近代版画に見る都市の創成1920-30年代」(2024-5年、パリ日本文化会館)、「北斎と広重 富嶽三十六景への挑戦」(2024年 中之島雪香美術館ほか)、「よみがえる浮世絵—うるわしき大正新版画」展(2009年)等。

第5回 10月17日(土)

ジャポニズム 世界を魅了した北斎と広重

田辺 昌子 (元千葉市美術館副館長・国際浮世絵学会副理事長)

学習院大学人文科学研究科博士前期課程修了。専門は浮世絵史。著書に『浮世絵のことは案内』(小学館 2005年)、『鈴木春信』(2017年)、『もっと知りたい 浮世絵』(2019年)、『もっと知りたい 喜多川歌麿』(2024年)、『もっと知りたい 葛屋重三郎』(2024年)、『江戸のおもしろおもちゃ絵「ものづくり」帖』(2025年 いずれも東京美術)等。

第6回 11月21日(土)

印刷のルーツ木版画、 明治創業の版元の仕事

山田 博隆 (美術書出版株式会社芸艸堂代表取締役社長)

1971年、京都生まれ。同志社大学卒業後、家業である芸艸堂に入社。2010年4代目として就任。京都版画出版協同組合理事長を兼任。芸艸堂は初代の山田直三郎が田中文求堂より独立し、図案図譜の出版を1891年京都で創業。文人画家 富岡鉄斎による社名は、紙を食べる害虫除けに使われた「芸香草(うんこうそう)」という植物の名に由来。

※2026年4月時点の情報です。日程・内容等を変更する場合は、当館HPにてお知らせいたします。



時間：各回 午後1時30分～3時30分(予定) 受講料：4,000円(全6回)

場所：中山道広重美術館 3階講座室(岐阜県恵那市大井町176-1)

▲講座生は中山道広重美術館友の会一般会員の特典が受けられます。

▲単独受講の当日席(若干数)は1回500円(観覧料別)。事前予約不可、先着順。

【お申し込み方法】

美術館受付に備え付けの申込書に必要事項をご記入の上、受講料を添えて直接ご提出ください。お電話やお問い合わせフォームからの仮申し込みも受け付けます。なお、定員(50名)になり次第締め切ります。

受付開始：2026年3月7日(土)から(開館日の午前9時30分～午後4時30分)

お問い合わせ：中山道広重美術館 TEL(0573)20-0522

